

平成24年度 活動報告 (年報)



教職員の森林・林業体験学習



木曾駒ヶ岳植生復元



森林ボランティア・NPO連携推進会議

中部森林管理局
木曾森林環境保全ふれあいセンター

平成25年3月31日発行

〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

一年を振り返って

平成24年3月に2名の職員が定年退職した後、4月に転入した私が当ふれあいセンターの所長に就任し、1名欠員の3名体制で平成24年度が始まりました。

着任早々、長野県林業大学校・木曽青峰高校の入学式、城山史跡の森倶楽部との遊歩道整備とあわただしいスタートとなりました。

その後も、城山史跡の森でのハイキング、下流域住民等との植樹祭・森林整備、中学校・高校生徒の歩道チップ敷き・森林散策、NPOの森林整備指導等の行事が息をつく間もなく夏まで続けました。

7月下旬になると、地元木曽福島において、みこしまくりという奇祭が行われ、赤松材から作ったみこしを縦、横に勇壮に転がし、段々壊れていく様子を初めて見ることができました。

8月に入って、木曽郡内のみどりの少年団の集いに参加したり、上伊那地域、木曽地域それぞれの教職員森林・林業体験研修会を開催し、多くの先生方に参加をいただき、学校関係者への森林・林業の大切さのPRが図られました。また、8月9日には、木曽駒ヶ岳植生復元対策事業検討会を開催し、高山植物の保護に詳しい委員の皆様から貴重なご意見を聴取することができ、今後の復元作業に反映していきたいと考えております。

9月には、間伐体験や森林散策で上下流域の交流を図る木曽川・森づくり in 赤沢、ボランティアによる木曽駒ヶ岳植生復元作業（マット敷設等）を実施し、それぞれ多くの方々に参加いただき、充実した時間を過ごしていただけたと思います。

10月には、岐阜県中津川市において、森林ボランティア・NPO連携推進会議と森ふれあいフェスタを開催し、局管内4県の森林ボランティア等19団体・局署職員合計74名の参加により、1日目は森づくり等のテーマで意見交換し、2日目はかんなくずプール等のワークショップを開いて地元市民等との交流が図られました。

10月下旬以降も、下流域住民による森林整備の指導、城山史跡の森においてカザグルマ自生地及びササユリ自生地の整備や巣箱掛け等を行いました。

年が明けて1月には、鈴木局長の発案により、地元木曽青峰高校の生徒が学校演習林のヒノキ間伐材を利用して製作したベンチの城山史跡の森倶楽部への贈呈式が行われ、地元への貢献と3年生生徒の思い出作りとなりました。

以上のように1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができたのも、当センターに勤務していたからできたことであり、大変有り難く思うとともに、多くの関係者の皆様に感謝いたします。

最後に、1年間1名欠員の3名体制の中で、協力して事業・業務を実行してくれた職員に感謝申し上げます。

[所長：近藤正彦]

活動内容等

ページ

第1	NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	…	1
1	自然再生の推進	…	1
2	森林環境教育支援	…	14
第2	支援体制の整備	…	17
1	地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備	…	17
2	木曽川下流住民による森林整備	…	22
3	小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	…	23
4	局管内で活動するNPO等の情報交換及び資質の向上を目的とした「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	…	24
	掲載された新聞記事の抜粋	…	26
	年間の活動及び行事等	…	29

当センター設置の目的

- (1) 国有林野を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- (2) 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曽森林管理署及び南木曽支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動することとする。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曽森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曽郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曽町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曽郡木曽町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 1250-7)

組織図



第1 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施する。

自然再生の取組は国有林とNPO等との連携により実施する。

(1) 長野県西部地震災害復旧地における自然再生事業

ア 肥料木として植栽されたハンノキ等による下層植生への被陰に対する間引き方法の検討

(ア) 事業概要

長野県西部地震（昭和59年9月14日）の発生から28年が経過し、これまで治山堰堤、緑化工事等の治山事業を主軸に積極的に災害復旧及び自然再生事業を進めてきたことで、荒廃地が緑の森林に甦りつつある。

また、昭和62年には中日新聞社との間に、同社の創業100周年の記念事業として、緑と水を守り、森林・林業への意識を高め、潤いのある国造りを目的とした「国民の森」を濁沢の造成地16.5haに設定した。樹種は、早期緑化樹種（肥料木）としてヤマハンノキ、ヤシャブシ、在来樹種であるヒノキ、サワラ、ミズナラなど約9万本の植栽が行われた。

以来、肥料木であるヤマハンノキ、ヤシャブシは成長も早く森林の主体として上層木を形成し、一定の成果をあげつつある。しかし、ヒノキ、サワラ等については、それら肥料木に被圧され今後の成長が懸念されることと、土石流により造成された土地は、まだまだ土壌の形成が未熟な状況にある。

在来樹種中心の針広混交林への誘導を模索するため、「国民の森」内に設定した作業プロットとその対象区双方のモニタリング調査等を今後も継続する。

また、肥料木の中段伐採等により倒木を低減し後生枝の発生と生長を促進することにより、肥料木の低木化と在来樹種の健全な生育環境の検討を行う。



長野県西部地震災害復旧地略図
（「よみがえる御岳」木曾署）

(イ) プロットの現状

A プロット I (中段伐採：後生枝の活用のプロット)



(21年4月) 林内の様子

土壌が未成熟な状況において、ヤマハンノキ等の落葉は貴重な土壌改良の要素である。しかしながら、ヤマハンノキ等の成長に伴う被圧による下層植生等への影響も懸念される。

このような状況において、下層植生等の成長を促進し、かつ、土壌の発達を促すために落葉の生産を考えた除伐方法を確立するため、平成19年度にヤマハンノキの中段伐採を行ったところ、後生枝の発生が認められた。



(21年11月)
平成20年度に引き続き後生枝が発生

しかしその後生枝も3～4年でほぼ枯損した。

このことからH23年度から新たに木口面の雑菌の侵入を防ぐ処理を行った試験地を設定した。

後生枝の発生状況は、63%の株からの発生を見た。



(23年11月)
平成22年度より枯損が目立ち始め、平成23年度にはほぼ枯損した。



(平成23年11月) 木口を滅菌薬剤で処理



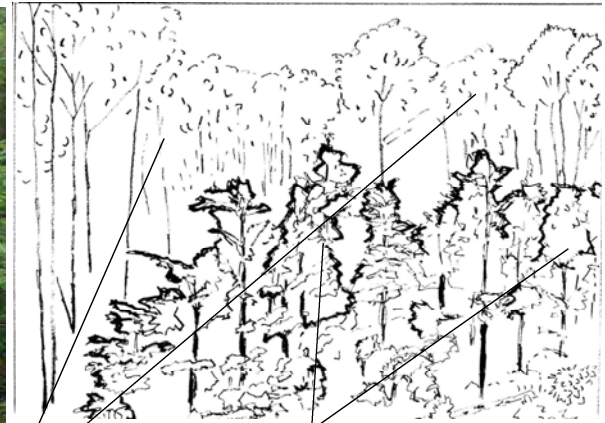
(平成24年10月) 干割れたものもあったが、中にはこんなに成績のよいものもあった。

B プロットⅡ（通常伐採のプロット）

上層木となっているヤマハンノキを伐倒し、ヒノキ・サワラのみとした。



二段林の様子



下層木（ヒノキ、サワラ）樹高5m

上層木（ヤマハンノキ等）樹高13m

C プロットⅢ（列状伐採のプロット）



（20年5月）

平成20年1月、上層木のヤマハンノキを伐採（写真中央 ヒノキ2列の間）ヒノキ2列目の成長が多少劣っている。



（22年10月）

ヒノキの成長が促されている。



(24年10月)

ヒノキの直径・樹高ともに良好に成長している。
林床植生も豊富

D プロットⅣ（対象区（前述プロットⅢの））



対象区林内、昼間でも薄暗く植物少ない

ヤマハンノキ、ヤシャブシの上層木が林冠を閉鎖し、下層木のヒノキの成長は劣っている。

また、陽光が入らないため林床植生の発生が見られない。

(ウ) 今後の課題

「国民の森」は、天然林に近い在来樹種の針広混交林を目標としているが、ヤマハンノキなどの上木を列状間伐などして林内を明るくし、自然に侵入してくる樹木を期待するのか、あるいはボランティアが育てている高木性のミズナラ苗等を植栽して針広混交林に誘導していくのか更なる検討が必要となっている。

また、中段伐採し後生枝の発生により肥料木の効果と下層木の成長促進を期待したが、後生枝の発生は見られたものの2～3年で枯損するものが多いためどうすれば残せるのか試行中であるが、現在の検討に加え伐採方法及び管理の検討が必要である。

イ 「未来世紀へつなぐ緑のバトン」に対する活動支援及びボランティア団体等へのフィールドの提供

「未来世紀へつなぐ緑のバトン」事業は、昭和59年に発生した長野県西部地震の被災跡地(木曾川上流域王滝村濁川に所在する御岳国有林内)の緑の再生を図るため、木曾川の水の恩恵を受ける下流域の愛知県や水源地の地元住民、関係団体、ボランティア団体、一般市民が参加して、植・育樹祭を実行委員会(王滝村、(独)水資源機構、中日新聞社、中部森林管理局で構成)が主催し、毎年開催している。

当ふれあいセンターは当地で自然再生事業を行っており、植・育樹等の技術指導や森林環境教育を行うなど、木曾森林管理署とともに活動を支援している。

5月19、20日、王滝村松原スポーツ公園において、未来世紀へつなぐ緑のバトンが開催され、約300人が参加した。

開催の式典では、来賓として中部森林管理局から木村総務部長が出席し祝辞を述べた。

式典後、御岳国有林濁川沿いの「未来世紀の森」、「国民の森」に移動しミズナラ、カエデなど約1200本の植樹と緑再生地の除伐作業を行った。植樹では、どんぐりから育てたミズナラ苗木を持参し植えているご家族連れも見られた。



祝辞を述べる木村総務部長



ミズナラの苗木などを植樹する参加者

(2) 木曾駒ヶ岳における植生復元対策事業

事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳稜線沿いなどの登山道わきでは、登山者の入り込み増加が誘因とも考えられる踏み荒らし等によって、高山植物の荒廃が進行しており、加えて大量の降雨、降雪による砂礫の移動や強風が植生の荒廃に拍車をかけている。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺を中心とする区域において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、木曾駒ヶ岳に係る関係者の参加による意見、情報交換の場と位置づけ、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを元に方針を立てボランティアの協力の下、翌年度より植生復元事業を実施している。

年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36

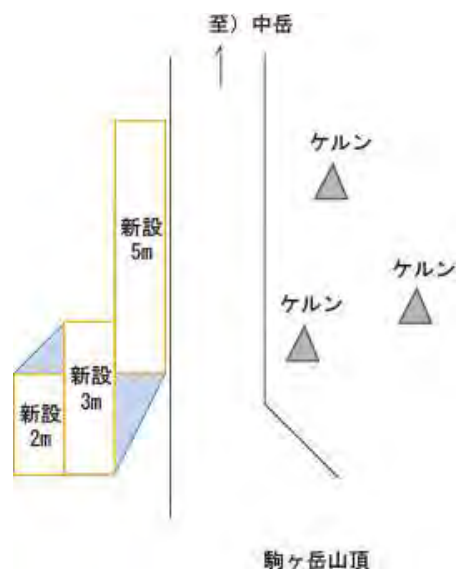
注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

以下に24年度の取り組みについて報告する。

(ア) 24年度マット敷設箇所の選定

24年7月に、21年度の「検討会」の意見等を踏まえ、木曾駒ヶ岳登山のルート沿いを中心に調査した。

調査対象は、植生の衰退を食い止めるため、飛砂や砂礫の流出・流入を防止し、視覚的にも登山者に訴えかける効果も期待でき、ボランティアの皆さんにも参加いただきやすく、かつ啓発もかねて環境教育を実践できる場ということで、新規設置は、昨年実施した天狗荘北西の登山道沿いの続きと伊那前岳方面(駒ヶ岳八合目付近)の登山道沿いを選定し、過去に実施してきた箇所の補修についても合わせて計画した。



平成24年度敷設計画図
(駒ヶ岳山頂付近)

(イ) 検討会の実施

17年度の開始より7年の実績について振り返り総括し、翌年度以降の実施に当たり指針とすべく現地踏査を含め検討会を実施した。

今までの実施してきた本事業の効果についてと今後においての手法のあり方として方法、施肥や水みちの処理のための構造物の作成の要否、モニタリングの重要性などさまざまな意見が出され、さらには目標はどこにおきどこまでやるのかについても意見が出され盛会のうちに終了した。



8.9 検討会風景

(ウ) マット敷設の実施

24年9月12日は好天に恵まれ、富士山も遥か遠く望める快晴のもと、植生復元対策検討会メンバーをはじめとして、ボランティア22名を含め総勢36名で実施した。

駒ヶ根市の菅の台にあるバス停に早朝に集合し、日本最高所駅の千畳敷ロープウェイ駅でオープニングを行った後に、敷設用マット(1×5m)とピン(φ3mm×15cm)などの資材を分けあって背負い、八丁坂を登り作業予定地を目指した。

中継点の乗越浄土で休憩後、駒ヶ岳山頂周辺方面と駒ヶ岳八合目(伊那前岳)付近方面の二手に分かれ、現地で各担当職員からマット敷設手順の説明の後作業を実施した。ボランティアの中には、3回以上参加されている方もおり、互いに指導しあいながら手際よくヤシ繊維製のマットを敷き詰め固定ピン等で設置を行なった。



参加者全員で



胸突き八丁な八丁坂を荷揚げ



敷設箇所(播種中)



敷設箇所(敷設作業中)

(3) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

ア 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外からの観光客など入込者が多く、レクリエーションの森として城山風致探勝林に指定されている。

「城山史跡の森倶楽部」と当ふれあいセンターが一体となって「城山史跡の森」の森林整備、案内看板や遊歩道等の整備を進め、木曾川下流域の人たちとの交流の場として活動している。

(ア) 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地で整備保護活動が行なわれているカタクリの自生地もあるため、本数調査や増殖・保護活動を継続して行っている。

今年度は、ササユリが今までの範囲のほか近くの林内にもまだ小さく花はつけないところまでは行かないものの多くの株があることが分かったことから、城山史跡の森倶楽部の会員・県林業大学の生徒と共に、成長の助長のためにかん木及び細い上層木を間引き、陽が入るよう除伐及び林床の刈り払い整備とササユリの見られない部分に種の採り蒔き作業を実施した。

また、結果は得られなかったが、本年も獣害により球根を掘り取られた事からセンサーカメラによる実態解明も試みた。

カザグルマについては、日当たりがいいこともあってクズが蔓延っていたことから同倶楽部と協働して、刈り払いと薬剤による枯殺処理を行なった。



センサーカメラの
設置



クズの根に薬剤
処理

○ カタクリの花の数調査

平成22年度	25本を確認
平成23年度	67本を確認
平成24年度	32本を確認



カタクリの自生地（24年4月）



カタクリの花（24年4月）

○ ヤマシャクヤクの花の調査

平成22年度	167本を確認
平成23年度	192本を確認
平成24年度	153本を確認



ヤマシャクヤクの花（24年5月）



ヤマシャクヤクの花（24年5月）

○ カザグルマの花をつけた蔓と花の調査

平成22年度	13本	51輪を確認
平成23年度	22株	77輪を確認
平成24年度	22株	133輪を確認

注：カザグルマについては株数は花をつけた株数



カザグルマの花（24年5月）



カザグルマの花（24年5月）

○ ササユリの花の調査

	本数	着花株
22年	149	27
22年	35	10
23年	29	18※
24年	75	29※

H24年度はどのササユリの株も花芽はひとつで2輪以上花をつけたものはひとつもなかった。

※株高10cm未満については含んでいない。



ササユリの自生地（24年6月）



ササユリの花（24年6月）



○ ササユリの被害状況

6月25日から29日の間に昨年の獣被害地のすぐ横の一本が球根を掘りとられていた。茎を食いちぎられ地面に十字に這っていた木の根を傷つけず残して下の方の球根部をとられていることから昨年と同一犯(イノシシ?)の仕業か・・・。

(イ)「城山史跡の森倶楽部」等が行う樹名板改設や遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

城山史跡の森倶楽部は、平成16年度に木曽森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」(対象面積77.9ha)を締結し、森林整備及びレクリエーションの森(城山風致探勝林)の案内標識の整備、歩道・林道等の整備を行うとともに、体験林業、自然観察会などの多様な体験活動を実施している。倶楽部の活動は役員会において協議し事業計画が作成されるが、当ふれあいセンターは、同倶楽部の活動全体をコーディネートする立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与などの支援を行っている。

A 遊歩道等の整備

(A) 4月15日に城山史跡の森倶楽部会員と共に、「史跡の森」遊歩道の冬期間に溜まった落葉や崩土の片付け、案内標識の補強などの整備と新たな樹名看板を設置し入林者に知識を広めていただくための整備も同時に実施した。



崩土除去



標識補強



看板背負い上げ



改設作業



改設された樹名看板

(B) 7月1日及び9月9日、遊歩道沿いの草刈り作業を指導した。



作業前の打合せ



林業大学生による草刈り作業

B 自然観察会等

(A) 4月29日に城山史跡の森倶楽部が主催する植物観察会が開催され約6Kmを5時間ほどかけて地域の参加者を集め行われた。当センターも講師のサポートとして出席した。



春まだ浅い遊歩道沿いの植物観察



散策の合間に郷土の遠望を楽しむ

(B) 11月18日は、城山史跡の森倶楽部会員・長野県林業大学校生ほか所員等で、前年に掛けた小鳥の巣箱を取り外し、今年度地元の方が作成してくれた新しい巣箱に交換した。営巣の兆候がある巣箱の比率は40パーセントほどで、今年も多くの小鳥が営巣することを願って作業を終了した。



来年の多くの営巣を期待して



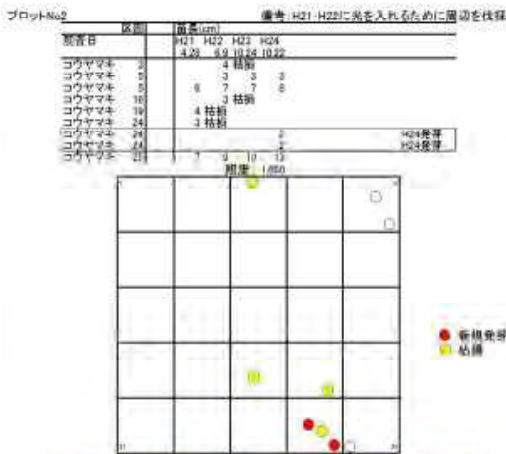
残された卵の殻に空想を膨らます

イ「城山史跡の森」に生育する木曾五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

(ア) 概要と状況

木曾谷地域におけるコウヤマキの生育箇所は限られており、天然木は通常では目にする機会があまり多くない。「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所がある。

コウヤマキの天然稚樹育成のための調査プロット（1×1m）を、平成20年度に林分配置調査を実施した区域内に、平成21年度に5プロット設定し継続して観察を行っている。



各プロット内のコウヤマキの稚樹は2本から7本と少なく、プロット周辺は、木曾ヒノキ、サワラ、モミ等が林冠を形成し、下層はホオノキ、リョウブなどの広葉樹が占有して春から秋にかけての林床への照度は弱く発芽条件が整わないと思われることから、後継稚樹の育成を目的とした補助作業である除伐を実施してきている。

平成24年度も、引き続き5箇所のプロットの稚樹の調査を実施したが、3本の新しい発芽が確認された。



稚樹発生の見られた調査プロット
本プロットは他に比べ生滅が激しい



稚樹の発生状況

(イ) 後継稚樹の育成を目的とした補助作業の除伐後の様子

平成21、22年度と除伐を行ったことから照度も上がり（参考：H24.10中旬、快晴雲なし11時頃で890 lx）、直射日光が差す場所については木曾ヒノキ等の発生が良好で、本年も消滅せず生育していた。



2 森林環境教育支援

(1) 学校等と連携した森林環境教育の実施

ア 木曽青峰高校1年生による木曽ヒノキ天然林見学と遊歩道のチップ敷設

木曽青峰高校では新入生を対象に、森林学習や体験学習として赤沢自然休養林の見学と遊歩道へのチップの敷設を実施した。

これは、木曽ヒノキの天然林を見学して地域遺産を認識し、歩道へ踏圧防止のチップ敷き作業をすることにより、地域貢献の意義を学習するために実施したもので、5月25日、175名の生徒と20名の先生・職員が10班に分かれて森林散策とチップ敷き作業に汗を流した。



木曽ヒノキの樹下でのチップまき



木にも人にも優しいチップを引きつめた歩道

当ふれあいセンターでは木曽森林管理署と協力して、千本立・奥千本などの林木遺伝資源保存林等の木曽ヒノキ林を案内し、天然林成立の経緯と保護の意義などを説明した。

木曽に生活していても、目にすることのほとんどない樹齢300年と言われる木曽ヒノキの森に、他には無い地域遺産としての誇りを感じていた。



林木遺伝資源保存林看板前で



約3時間かけて見学

イ 木曾青峰高校3年生による間伐材で作成したベンチの贈呈

平成25年1月16日に、木曾町の木曾青峰高校森林環境科3年生が、木曾町の城山国有林（城山史跡の森）をフィールドとして森林整備等の活動を行っている城山史跡の森倶楽部への木製ベンチ10脚の贈呈式を行い、式典で同倶楽部の樋口会長は、「苦勞して作ったベンチを大切に使いたい。」と謝辞を述べられました。

このベンチは、城山国有林に隣接する同校の演習林の間伐材を利用したもので、昨年10月から林産加工の実習で制作に取り組んできました。

ことの始まりは、昨年7月に鈴木局長が当センターを訪れた際、局長から、「城山国有林に隣接する木曾青峰高校の生徒に何か工作物を作ってもらい、国有林に置くことができれば地域への貢献と生徒の地元に対する思い出になるなあ。」という話からでした。

その後、同校を訪れ、先生に上記の経緯を話すと是非やってみたいとのこととなり、実現に至りました。

城山史跡の森の散策コースは、地元住民や観光客が多く訪れ、木曾駒ヶ岳や木曾町福島町の町並みを見下ろすことができる紅葉ヶ丘等に雪解け後の4月にベンチを設置する予定です。



木曾青峰高校生からベンチの贈呈



贈呈されたベンチを前に集合写真



設置予定場所からの眺望
遠くは木曾駒ヶ岳が臨める



個性豊かなベンチたち

イ 他県学校への森林環境教育支援

(ア) 愛知県犬山市の犬山中学校は、近くを流れる木曽川との関わりが深いことから、木曽での総合学習として植樹や遊歩道へのチップ敷の体験活動をしている。

5月16日は2年生238名が赤沢自然休養林で遊歩道へのチップ敷のチームと植樹作業のチームに別れ、作業を行なった。

作業に先立ち休養林の案内を行なっているNPO法人「木曽ひのきの森」の会長からヒノキ林がどのように成立して現在まで守られて来たのか、上流域と下流域との関わりなどについて講演を聞いた。

当センターでは、木曽森林管理署の職員と連携して記念植樹・遊歩道へのチップ敷の指導をした。チップの入った大きな袋を運ぶ生徒を励まして、敷く場所へ誘導した。

生徒達も慣れない作業に苦労しながら、森林の保全に役立っていることを実感していた。

作業の後は、森林鉄道に乗り森林散策を楽しんだ。



木曽山の歴史と上下流域のかかわりを勉強



二班に別れ1本ずつ記念植樹



チップをまく疲れを知らない生徒たち



大袋のまま運ぶ猛者も現れ・・・

第2 支援体制の整備

1 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備

(1) 長野県木曾地方事務所及び林業関係団体等との連携

ア 木曾郡植樹祭の共催実施

県木曾地方事務所や自治体及び林業関係団体が主催する木曾郡植樹祭が6月6日に木曾町の開田高原を会場に約360名が参加して開催された。

この植樹祭は郡下6町村で会場を持ち回りに開催しているもので、当地を管轄する木曾森林管理署とふれあいセンターが共催した。

当日は天候もよく今世紀最後といわれる金星の太陽面通過も観察できる上天気だった。

開田中学校のみどりの少年団をはじめ参加者はあらかじめ30人程度の班になり、二手に別れ一方はシラカバ・レンゲツツジ・コブシなど約400本を植え、他方はカラマツ林内の雑木類を除伐し、開田高原の澄んだ空気のなか気持ちのよい汗を流した。



みどりの宣言をする中学生



シラカバを植樹



爽やかなカラマツの林間で植樹するみどりの少年団



雑木と格闘

イ 木曾地区みどりの少年団交流集会の開催

木曾地区のみどりの少年団が一堂に会して、緑豊かな自然の中で交流し、共同作業と森林・林業その他自然に関する学習活動を通して相互の連携を深め、緑を愛する豊かな心を育むことを目的とした「木曾地区みどりの少年団交流集会」が8月3日、県木曾地方事務所と木曾郡緑化推進委員会の主催で、木祖村こだまの森周辺において開催された。この日は、郡内のみどりの少年団12団体、124人が参加して、代表中学校からの活動報告があり、アイスブレイクでお友達の輪を醸成してから、ベンチ作りなどの木工作とウォークラリーを楽しんだ。

当ふれあいセンターでは、地方事務所からの派遣要請を受け2名の職員を派遣し、指導に当たった。

ベンチ作りでは、事前に用意したヒノキの板、太鼓型に削った丸太を利用し、設計図を見ながら、各班ごとに協

力して組み立て釘を打ち製作した。最後に記念プレートに名前などを書き入れ完成させた。中でも板が厚いので釘打ち作業に苦勞をしていた様子であった。

ウォークラリーでは、6つミッションの設問を各班全員で意見をまとめたり、行動して難問をクリアしていった。



開会式



みどりの少年団 活動報告



各班ごとに協力してベンチ作り



ウォークラリー

「目隠しして歩け！」に挑戦

(2) 木曽川下流域のNPO等が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 木曽川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

名古屋市のNPO法人緑の挑戦者は木曽郡内3町村と森林整備協定を結び、木曽川下流域の市民を募集し森林整備をしている。

当ふれあいセンターでは該当町村の派遣依頼を受け、作業用具の貸出しと技術指導を行なった。今年度は5回の予定が天候により3回の実施(6月2日木祖村、10月13日木祖村、10月27日木曽町)であった、いずれも企業単位での参加者が多く、早朝からの参加にもかかわらず、職場の仲間同士で和やかに除・間伐作業を実行した。



木祖村での春の作業



木曽町での秋の作業

イ 「ふれあいの森」森林整備 特定非営利活動法人 地球緑化センター

特定非営利活動法人 地球緑化センターは、木曽森林管理署と「ふれあいの森」森林整備協定を結び、ボランティアを募って赤沢の森林整備をしている。今年度は計3回、6日間にわたり延べ40名が間伐に汗を流した。

本活動は森林学習と森林整備を併せて行なっており、宿泊が伴うことから毎回参加費を個人負担し活動をしていることに参加者の強い熱意が感じられる。

当ふれあいセンターでは、木曽森林管理署の担当者と連携を図りながら、作業用具の貸出しや技術指導などの支援をしている。



最初に参加者全員で記念撮影



作業前の綿密な打合せ

(3) 木曾川下流域の自治体が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 「平成の名古屋市民の森づくり」事業への協力

木曾広域連合は、名古屋市が主催する名古屋城本丸御殿復元事業実施に伴い、将来の建築材供給を目指して木曾谷での森林育成活動をしている。

5月12日は名古屋市からの一般募集の市民と職員あわせて約160名が木曾町の町有林でヒノキやコナラなどの植樹と育樹作業に汗を流した。

当ふれあいセンターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸出しと共に、技術指導で支援した。

当日は晴天に恵まれ、親子連れの参加者は、慣れない手つきで唐鍬を振るっていた。植樹された樹木には参加者のネームプレートをつけて、次に訪れたとき確認が出来るよう配慮されていた。植樹の合間には協力団体の技術者が、立木の伐倒実演を行い、参加者からは倒れる時の迫りに歓声が上がった。



天候にも恵まれ作業前のひと時



またくるよ！と植樹木に名札をつけて

イ 愛知県みよし市「みよし市友好の森」間伐ツアーへの支援

木曾川の水の恩恵を受けている愛知県みよし市は、平成12年1月に木曾川の水源地となる木曾町三岳、御岳黒沢国有林841林班の一部を「友好の森」として取得し、市民がツアーを組んで森林整備（体験林業）に訪れ、水源地域と交流をしている。

今年も9月29日に、市民や親子連れ37名が「みよし市友好の森」間伐ツアーに訪れ、地元からは町をはじめ関係者35名が参加し、72名で、間伐体験に汗を流した。

当ふれあいセンターは木曾森林管理署職員とともに間伐体験の指導者を担当して支援した。



参加者全員で記念写真



真剣に間伐体験

ウ 木祖村・日進市合同植樹祭支援

愛知県日進市は、木曽森林管理署管内小木曽国有林において「平成日進の森林」として分収造林契約をしている。森林の手入れについては、木曽川の水の恩恵を受けていることから、地元自治体と友好自治体提携を締結して交流活動を実施している。

5月12日、13日には、木祖村において友好自治体提携20周年記念として「木祖村・日進市合同植樹祭」が行われ、木祖村及び日進市のみどりの少年団や市村民など約140人が、モミジ400本、クリ150本の植樹と平成日進の森林の除伐等を行い、当センターも木曽森林管理署、長野県等と連携して技術指導等の支援を行った。



開会式での木曽署高嶋署長の挨拶



除伐作業に精を出す参加者

2 木曽川下流住民による森林整備

木曽川・森づくりin赤沢

木曽川上流域にある森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」において、下流域の名古屋市等の住民と上流域の木曽郡内の住民や森林ボランティア団体等による間伐作業、自然観察会等を通じ、交流を深めて頂くとともに、森林の大切さや役割、国有林野事業の様々な取組についてPRすることを目的とした「木曽川・森づくりin赤沢」を開催した。

9月8日、木曽川の上下流域から25人、講師及びスタッフ併せて33人が参加し、地元上松町の協賛を得て開催した。昨年は台風の影響による車道への落石により中止となったため、2年ぶりの開催となった。

はじめに開会式で、安藤指導普及課長が主催者あいさつを述べ、担当者から日程説明などを行い、その後、参加者は午前午後交代で森林散策を楽しみ、森林整備（間伐）に汗を流した。

森林散策は、NPO 法人木曽ひのきの森及び城山史跡の森倶楽部に依頼した講師の案内により、森林鉄道に乗車した後、自然休養林内の木曽ヒノキ林を植物ガイドを聞きながら歩いた。

森林整備（間伐）は、局指導普及課及び当センター職員による指導により、81年生のヒノキ林の間伐を実施した。9月に入ったとは言え今年の夏の暑さが残る中、汗を拭きながらの作業となった。初めて間伐作業を行った参加者も、最初は慣れない手つきでしたが、慣れてくると楽しそうにノコギリを使って作業していた。



主催者挨拶をする安藤指導普及課長



森林鉄道に乗車した参加者



植物ガイドを聞く参加者



伐倒作業をする参加者



玉伐りをする参加者

3 教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会の開催

児童・生徒の指導者である教職員を対象にした森林・林業の体験学習研修会を実施することにより、森林環境保全の重要性の普及と、国有林を教育のフィールドとして活用してもらい、さらには児童・生徒へ森林環境教育が広がることを目的に長野県地方事務所との共催により2地域で開催した。

上伊那地域の研修会は、8月2日、南信森林管理署管内手良国有林及び国有林に隣接する手良地区で開催した。午前中は、教員OBで同地区の前公民館長を務められ、歴史や文化財に詳しい、宮原講師の案内で、石仏や神社などの文化財巡りを行った。地区で守っている文化財に触れ歴史を感じることができ、また、今までの国有林との繋がりなども話していただき、貴重な体験となった。午後は、はじめに、署のふれあい係長からニホンジカの被害や防止対策の取組みを説明し、続いて、国有林内のヒノキ林で間伐体験と樹木測定を行った。体験した先生方から、「間伐作業は本当に大変な仕事ですね。」と感想が聞かれた。



百庚申の石仏の前で



間伐体験の様子

木曽地域の研修会は、8月6日、木曽森林管理署管内瀬戸川国有林において、7小、中学校から教職員13名の参加を得て、木曽森林管理署ヘインターンシップにきている実習生3名を加えて開催した。午前中は木曽出身の教員OBで植物に詳しい、楯講師と羽秋講師の案内により瀬戸川風致探勝林の植物や樹木を観察した。午後は国有林内で間伐体験を予定していたが雷雨により中止せざるを得なくなった。植物観察では、往復3kmを散策しながら、サワダツやイトゴケなどこの地区では珍しく植物もあり、また、樹木では直径1mを超える木曽ヒノキもあって、参加した先生方は講師の説明に注意深く聞き入るとともに、ルーペを使っての観察や写真撮影をするなど学習されていた。



講師による植物の説明



参加者の集合写真

4 森林ボランティア・NPO連携推進会議

森林ボランティア・NPO連携推進会議は、当局管内の富山、長野、岐阜、愛知の4県で活動している森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、講演会や意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」を開催・運営することを通じ、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に今年度も開催した。

10月5日（金）・6日（土）の2日間、岐阜県中津川市の中津川文化会館及び中津川河川公園芝生広場において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」（連携推進会議実行委員会主催）を開催し、森林ボランティア団体・NPO法人など19団体と、局署の職員等、併せて総勢74名が参加した。

1日目は、中津川文化会館多目的研修室において会議を行った。開会式では、主催者の実行委員会を代表して、岐阜県のNPO法人恵那山みどりの会藤井事務局長と中部森林管理局として宿利計画部長から挨拶があり、また、後援をして頂いた中津川市から水野副市長が来賓として出席され、歓迎の挨拶を賜った。

引き続き会議に入り、講演会では「苗木遠山と山林 木曾川運材に働いた大名」と題し、中津川市苗木遠山史料館調査員の千早保之氏から、江戸時代に幕府老中より名古屋城築城など用材の搬出に係る3代官（木曾代官、裏木曾代官、伊奈代官）あての書状、木曾川や支流での用材流しの絵図など、貴重な史料に基づく講話があり、神社仏閣などの建築、修理に、現在の東濃森林管理署や木曾森林管理署管内の木曾ヒノキなどの優良材が使用されたことを改めて学ぶことができました。

続いて、意見交換会では「森林づくり」及び「森林とのふれあい」の二つをテーマに、6班に分かれて、各団体の活動の現状や課題、取組方向などの意見交換を行い、まとめとして各班代表から発表があり、内容を全員で共有した。



開会式で挨拶する宿利計画部長



講演会の様子



意見交換会の様子

2日目は、中津川河川公園芝生広場を会場に、一般市民を対象として、参加団体が得意とするワークショップを準備し、参加者が協働してスタッフとなり運営するイベント「森・ふれあいフェスタ ～自然と遊ぼう 森に学ぼう～」を開催して、外部との交流を図った。

ワークショップは「ウッディ福笑い」、「竹とんぼ作り」（以上、NPO法人やまぼうし自然学校）、「竹笛作り」、「チェンソーアートの実演」（NPO法人名古屋シティ・フォレスター倶楽部）、「わら細工」、「ブリッジ積木」（裏木曾古事の森育成協議会）、「屋根葺き体験」（公益社団法人全国寺社等屋根工事技術保存会）、「足踏みロクロ体験」（森の守倶楽部）、「鼻笛体験」、「笹舟作り」（くりくり工房）、「ドパスアート」（国土防災技術株式会社）、「シャボン玉」（NPO法人恵那山みどりの会）及び「丸太切りと小木工」、「かんなくずプール」（中部森林管理局・署）の14ブースを設定した。

好天に恵まれ、約200人の市民、親子・家族づれの方々が来場し、延べ320の方が各ワークショップを体験された。体験している子供達やご家族の皆さんは、満面の笑みを浮かべて楽しんだり、材料や製品を興味深そうに眺め感心したりされていた。

2日間を通じ、参加団体の連携が深まるとともに、今後の活動の幅や内容が広がる機会となった。また、多くの一般市民がワークショップを楽しく体験し、森林・林業に対する理解を深めて頂くことができた。



足踏みロクロ体験



屋根葺き体験



ウッディ福笑い



ドパスアート



かんなくずプール



スタッフの皆さん(参加団体・局署職員)

地震災害復旧地の自然再生

未来世紀へつなぐ緑のバトン

ササユリ保護と小鳥の巣箱掛け

(13) 5月21日(月) 平成24年(2012年) 市民タイムス

市民タイムス 11.29

王滝村で19日、昭和59年の奥西地域震で土砂崩落によって荒廃した山に木を植えて、水源の地を守ろうという催し「未来世紀へつなぐ緑のバトン」が開かれた。約300人が参加してミズナラと桜、カエデの苗木計1200本を植えた。



水源の山に苗木を植える参加者たち

水源の森流域住民が育む 王滝村 地震復旧地で植樹祭

王滝村で19日、昭和59年の奥西地域震で土砂崩落によって荒廃した山に木を植えて、水源の地を守ろうという催し「未来世紀へつなぐ緑のバトン」が開かれた。約300人が参加してミズナラと桜、カエデの苗木計1200本を植えた。

ポランティアの手を借りて荒廃地を緑化する催しは、地震の翌年に始まったという。13年前からは「緑のバトン」の名で毎年行われている。植樹前に松原スポーツ公園で開かれた式典で、瀬戸普村長ら5人の訪問団と友好を深めた。写真：グリーンデルワルト村

水源の森流域住民が育む

王滝村 地震復旧地で植樹祭

ササユリ自生地整備に汗 住民有志草刈りや種まき

木曾町の住民、会員や中部森林住民有志で、管理員、県林業大学校の学生ら17人が参加した。日差しを避る雑木を切った後、約300粒の種をまいた。4年ぶりの作業で、

住民有志草刈りや種まき

ササユリ自生地整備に汗

参加者は下草を丁寧に刈り取ったり雑木を切ったりした。ササユリはユリ科の多年草で、黒版レッドデータブック(準絶滅危惧種)に記載されている。種まきから発芽まで数年、開花には7~10年かかるなど成長が遅い。近年は愛好家による乱獲やイノシシの食害でほとんど見かけなくなっていることから、倶楽部の古幡和久事務局長(75)は「無事に花を咲かせてくれるとうれしい」と願った。



自生地の雑木を切る参加者

参加者は下草を丁寧に刈り取ったり雑木を切ったりした。ササユリはユリ科の多年草で、黒版レッドデータブック(準絶滅危惧種)に記載されている。種まきから発芽まで数年、開花には7~10年かかるなど成長が遅い。近年は愛好家による乱獲やイノシシの食害でほとんど見かけなくなっていることから、倶楽部の古幡和久事務局長(75)は「無事に花を咲かせてくれるとうれしい」と願った。

整備に含ませて、毎年約40個を新調した。行っている小鳥の巣箱の掛け替えもあり、(田中理子)

木曾駒ヶ岳における植生復元

長野日報 9.13



山頂に高山植物を 復元へマット設置

中部森林管理局 復元へマット設置

中部森林管理局木曾森林環境保全課(木曾市)は、木曾駒ヶ岳の山頂に高山植物の復元作業を行った。参加した観のボランティアを含んだ約100人が、登山道の歩道と登山道に沿って設置した斜面に表土を敷き、高山植物が成長しやすいマットを敷き詰めた。(佐々木孝也)

作業は05年から始まった。今年からは、今年で8回目。地元やその他の地から参加した約100人が、登山道の歩道と登山道に沿って設置した斜面に表土を敷き、高山植物が成長しやすいマットを敷き詰めた。(佐々木孝也)

今年からは、今年で8回目。地元やその他の地から参加した約100人が、登山道の歩道と登山道に沿って設置した斜面に表土を敷き、高山植物が成長しやすいマットを敷き詰めた。(佐々木孝也)

木曾駒ヶ岳

山頂に高山植物を

復元へマット設置

技術専門校による林業体験

中日 5.12

ヒノキを間伐 年輪の観察も

上松町の県立松技術専門校の訓練生4人が11日、町内の赤沢自然休養林で間伐作業や天然林内の散策をした。間伐は数人ずつの班に分かれ、間伐体験区域約一畝のヒノキを中心にした。林野庁

上松技術専門校は毎年、赤沢自然休養林で実習している。(近藤隆尚)

木曾森林管理署の職員から倒す方向などの指導を受けた。切り株を観察しながら、年輪の細かい天然林の特徴も学んだ。

作業後は一般開放されない「奥千本」「千本立」と呼ばれるヒノキの天然林で、樹齢三百年以上の木々を見学した。



ヒノキの間伐作業をする上松技術専門校訓練生＝上松町の赤沢自然休養林で

ミズナラやツツジやアザミやグルマ、ヒナゲシなどの植物が植付いている。阿部村中から初参加した植生ボランティア(4)は「一度は登山道に植付たい」といって、再び来るのが楽しみ。植付たい植物をリストアップし、これからの作業は、成果を上げていくと話していた。

県地方事所との連携・支援

木曾川下流自治体による森林整備整備支援

木曾郡植樹祭

名古屋市 市民による森づくり

平成24年 6月7日(木) 市民タイムス

市民タイムス 5.13



植樹作業に汗を流す開田中の生徒たち



苗の根元に丁寧に土を盛る植樹作業参加者たち—木曾町戸立で

力合わせて森を育む

開田高原で郡植樹祭

開田高原の玄関にあ
かる、新地蔵トンネル
に近い国道361号沿
いで作業し、シラカバ
300本、レンゲツツ
ジ100本、コアシ25
本を植えた。開田中
年の向井和樹君(13)

開田高原の玄関にあ
かる、新地蔵トンネル
に近い国道361号沿
いで作業し、シラカバ
300本、レンゲツツ
ジ100本、コアシ25
本を植えた。開田中
年の向井和樹君(13)

「平成の名古屋市民の森」と名付けた六・四の日の、今年は約五十七でヒノキ二百三十本の他、コブシやヤマトツツじといった広葉樹五種類を植えた。地元森林組合員らの指導を受け、くわで掘った穴に苗を立て、周辺を

名古屋市民らが御殿元にも木曾ヒノキなど植樹木曾町有林に植本木曾町戸立の町有林で十一日、名古屋市民約百六十人がヒノキなど計四百五十五本を植樹した。名古屋城本丸足で踏み締めた。名古屋市中川区の小学校教員服部縁さん(四三)は「さすがに成長が楽しみです」と話し、一緒に参加した次女彩花さん(二)、その友人秀島菜々子さん(二)と、植えた苗を笑顔で見つめていた。一行は樹高二十センチあり、カラマツの伐採も見学した。(近藤隆尚)

日進市・木祖村合同育樹祭支援

中日 5.13

緑の挑戦者 木曾川水源地域の森造り

市民タイムス 6.8



のこぎりを使って山の手入れに汗を流す参加者

木祖 水源の森林育てよう

水源地である木曾郡の町村と協力して森を育てよう

中京の70人 除伐に汗

木曾川の上流に位置する日進市と愛知県日進市、木祖村の合同育樹祭を、木祖村の町民百四十人が参加。栗原優也村二に友好提携を結んだ。村内の固有林三千二、九万五千本のヒノキを共同で植え、育樹を続けている。(吉川翔大)

友好20周年合同植樹



友好提携20周年を記念して植樹をする参加者—木祖村で

木曾川と愛知県日進市は十二日、友好提携味噌川ダム近くの「友誼の森」で開いた。二十周年を記念した「友好の森」で開いた。両市村の住民百四十人が参加。栗原優也村二に友好提携を結んだ。村内の固有林三千二、九万五千本のヒノキを共同で植え、育樹を続けている。(吉川翔大)

歩いて学ぶ城山の植物観察会



植物を観察しながら遊歩道をたどる参加者

木曾町福島の城山を、群生や城山で最も大きな植物を観察しながら歩く催しが20日、15人が参加して行われた。...

福島中学校の元校長 住民グループ・城山史跡の森倶楽部(樋口さん(68))...

間伐を体験 森に親しむ

赤沢自然林でイベント

上松町の赤沢自然林 理解を深めた。養林で8日、自然観察 樹齢約80年のヒノキ...



赤沢自然林で間伐作業を体験する参加者

にロープを巻いて引張った。初めて体験したという愛知県小牧市の百田春夫さん(61)...

青峰高校生によるベンチ作成・贈呈

中日

2013年(平成25年)1月17日(木曜日)

ベンチ有効に使って

木曾青峰高校生間伐ヒノキで10台製作



城山史跡の住民団体に寄付

ベンチは長さ一・五組んだ。二年前に先輩 手掛けた。一・八尺。生徒たちが伐採した木材を...

城山史跡の森倶楽部の樋口清会長もにベンチを贈る生徒たち=木曾町の木曾青峰高で

城山史跡の森倶楽部は二〇〇四年、木曾森林管理署と協定を結び、森一帯で小鳥の巣箱設置や遊歩道整備を...

紅葉ヶ丘、福島城跡、権現滝にベンチが置かれる見込み。十六日は倶楽部の会員六人が学校を訪れ...

らおうと平成17年から 養林の休園で中止とな開かれている。昨年は、2年ぶりの開催だった。町道への落石による休...

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	5	長野県林業大学校入学式出席
	6	長野県木曾青峰高等学校入学式出席
	14	森林整備（除・間伐）指導職員派遣（NPO法人緑の挑戦者） 「特定非営利活動法人木曾ひのきの森」総会出席
	15	「城山史跡の森」樹名板設置指導（城山史跡の森倶楽部）
	24	森林ボランティア会議・NPO連携推進会議予定地調整（中津川市）
	19	2012 未来世紀へつなぐ緑のバトン実行委員会出席（王滝村）
	19・20	主任安全管理者会議出席
5	29	「城山史跡の森」自然観察会案内（城山史跡の森倶楽部）
	7	「城山史跡の森」内カタクリ個体数調査
	8	森林ボランティア会議実行委員会出席（中津川市）
	10	「城山史跡の森」内ヤマシャクヤク個体数予備調査
	11	体験林業の指導（上松技術専門学校）
	12	「平成の名古屋市民森づくり」事業における植・育樹指導職員派遣
	12・13	木祖村・日進市合同育樹祭指導職員派遣
	16	体験林業の指導（愛知県犬山中学校）
	17	長野県西部地震災害復旧地における自然再生補助作業予備実施
	18	「城山史跡の森」内ヤマシャクヤク個体数調査
	19・20	2012 未来世紀へつなぐ緑のバトン植樹等出席
	21	長野県西部地震災害復旧地における自然再生補助作業予備実施
	22	24年度「教職員森林・林業体験学習研修会」予定地調査（南信地区）
	25	赤沢自然休養林案内（木曾青峰高校1年）
6	26	「NPO水の始発駅」総会出席
	29	「城山史跡の森」内カザグルマ開花調査
	2	森林整備（除・間伐）指導職員派遣（NPO法人緑の挑戦者）
	6	木曾郡植樹祭共催・植樹指導
	9・10	「ふれあいの森」整備の指導（NPO法人地球緑化センター）
	25	「城山史跡の森」内ササユリ個体数調査
	27	高山植物等保護対策協議会木曾地区協議会総会出席
7	28	木曾駒ヶ岳における植生復元作業地調査（看板設置箇所確認）
	1	「城山史跡の森」遊歩道刈り払い指導（城山史跡の森倶楽部）
	5	木曾駒ヶ岳における植生復元作業地調査
	10	森林ボランティア会議実行委員会出席（中津川市）
	12	「低コスト・高効率作業システム」現地検討会出席
8	18	木曾駒ヶ岳における植生復元作業地の補修整備（看板設置）
	27	木曾町林政懇談会出席
	1	高山植物等保護パトロール参加
	2	南信地区教職員森林・林業体験学習研修会の開催（自然文化観察・間伐作業）
8	3	木曾地区みどりの少年団交流集会指導職員派遣
	6	木曾地区教職員森林・林業体験学習研修会の開催（自然観察）

月	日	活 動 内 容
8	9	木曾駒ヶ岳植生復元対策作業検討会
9	8	木曾川・森づくり in 赤沢開催
	9	「城山史跡の森」遊歩道刈り払い指導(城山史跡の森)
	12	ボランティアによる木曾駒ヶ岳植生復元作業の実施
	18	森林ボランティア会議実行委員会出席(中津川市)
	25	木曾駒ヶ岳における植生復元作業地補修整備(看板一部回収)
	29	「みよし市友好の森」ふれあいツアー除・間伐作業の安全指導
10	5	森林ボランティア・NPO連携推進会議開催(岐阜県中津川市)
	6	森・ふれあいフェスタ開催(岐阜県中津川市)
	11	国有林野所在市町村有志協議会出席
	12	ササユリ自生地へのセンサーカメラ設置
	15	木曾駒ヶ岳における植生復元作業地補修整備(看板回収)
	16	長野県西部地震災害復旧地における自然再生補助作業実施
	20・21	「ふれあいの森」整備の指導(NPO法人地球緑化センター)
	22	城山国有林コウヤマキ生育調査
	24	長野県西部地震災害復旧地における自然再生補助作業実施
	27	森林整備(除・間伐)の指導職員派遣(NPO法人緑の挑戦者)
11	7	林政協議会木曾谷流域部会に出席
	8	「城山史跡の森」内カザグルマ自生地のクズ除草処理実施(城山史跡の森倶楽部)
	9	城山国有林コウヤマキ生育調査
	13	赤沢ヒノキ実地研修会
	18	「城山史跡の森」内ササユリ自生地の除伐及び播種の実施(城山史跡の森倶楽部)
	18	小鳥の巣箱修理指導(城山史跡の森倶楽部)
	19	森林ボランティア会議・NPO連携推進会議予定地調査(諏訪・塩尻市)
	20	25年度「教職員森林・林業体験学習研修会」予定地調査(木曾・南信地区)
27	カザグルマの支柱確保(城山史跡の森倶楽部)	
1	8	カラマツ林業等研究発表会出席
	16	長野県木曾青峰高校生徒(3年生)作成の間伐材使用のベンチ贈呈式参加
	21	シラカバ等工作用資材調達
	29	ヒノキ等工作用資材調達
2	5	ヒノキ等工作用資材調達
3	5	長野県木曾青峰高等学校卒業証書授与式に出席
	5	長野県林業大学校卒業式に出席
	6	2013 未来世紀へつなぐ緑のバトン実行委員会出席(王滝村)
	12	城山史跡の森倶楽部総会に出席
	13	林政協議会木曾谷流域部会に出席

